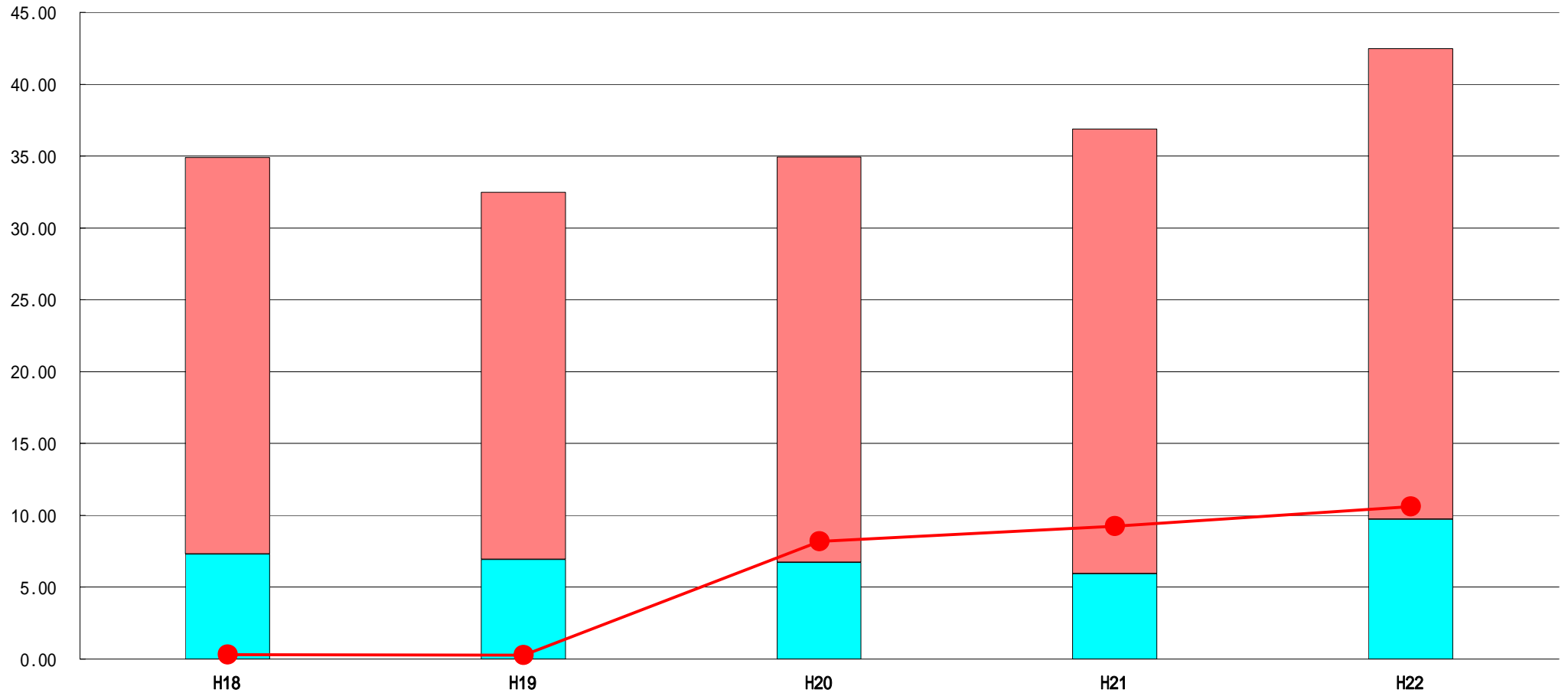


(5) 実質収支比率等に係る経年分析(市町村)




平成22年度

長野県中川村

標準財政規模比(%)



標準財政規模比(%)

| 区分 | 年度 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 |
|--|----|-------|-------|-------|-------|-------|
|  財政調整基金残高 | | 27.58 | 25.53 | 28.22 | 30.94 | 32.76 |
|  実質収支額 | | 7.31 | 6.94 | 6.72 | 5.95 | 9.72 |
|  実質単年度収支 | | 0.29 | 0.27 | 8.19 | 9.26 | 10.61 |

分析欄

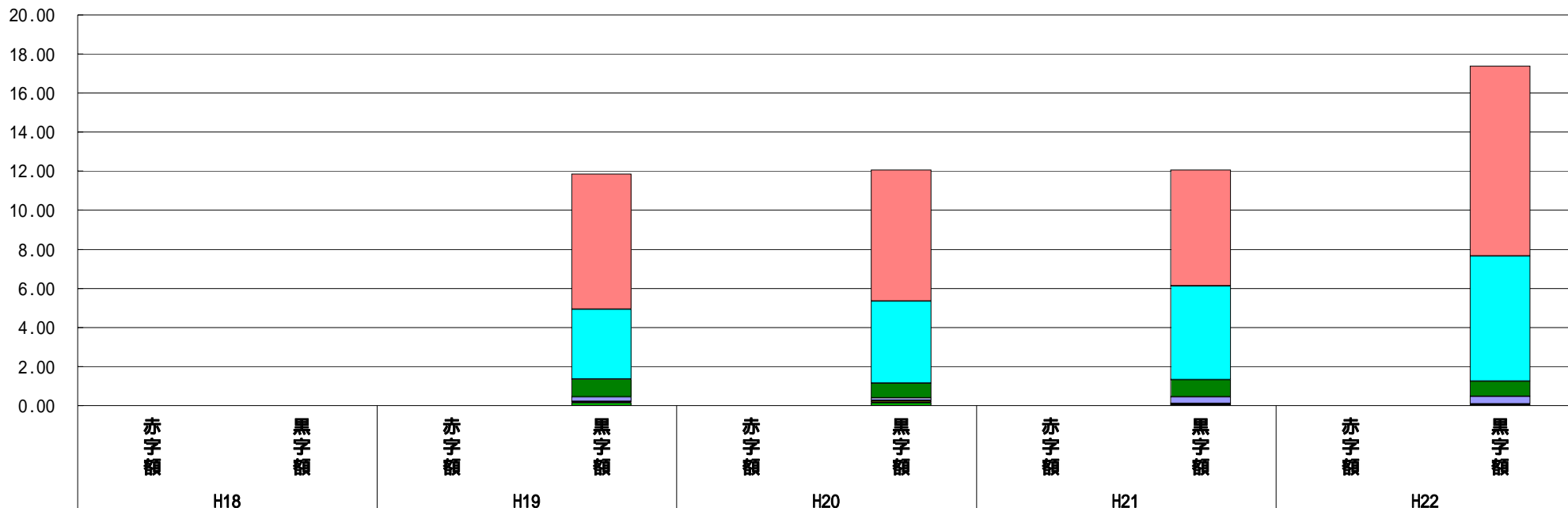
標準財政規模は、普通交付税をはじめ経常的一般財源の増加に伴い年々増加傾向にあり、H22年度はH18年度に比べ229,392千円増加している。一方、財政調整基金は余剰金の積み増しなどにより増加、併せて実質収支額も増加している。
 実質単年度収支については、上記に加え繰上償還をここ数年実施していることも要因となり上昇している。

(6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析 (市町村)

平成22年度

長野県中川村

標準財政規模比 (%)



標準財政規模比 (%)

| 会計 | 年度 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 |
|--------------|----|-----|------|------|------|------|
| 一般会計 | | - | 6.94 | 6.72 | 5.95 | 9.72 |
| 水道事業会計 | | - | 3.56 | 4.20 | 4.79 | 6.40 |
| 国民健康保険事業特別会計 | | - | 0.93 | 0.74 | 0.89 | 0.79 |
| 介護保険事業特別会計 | | - | 0.23 | 0.13 | 0.33 | 0.39 |
| 農業集落排水事業特別会計 | | - | 0.04 | 0.04 | 0.05 | 0.03 |
| 公共下水道事業特別会計 | | - | 0.04 | 0.08 | 0.05 | 0.03 |
| 後期高齢者医療特別会計 | | - | - | 0.01 | 0.01 | 0.01 |
| 老人保健医療特別会計 | | - | 0.12 | 0.14 | 0.00 | 0.00 |
| その他会計 (赤字) | | - | - | - | - | - |
| その他会計 (黒字) | | - | - | - | - | - |

分析欄

各特別会計においても実質赤字、資金不足は発生していない。ただし、多くの特別会計では、使用料などその会計の独自収入のみで収支が均衡している訳ではなく、一定のルールに基づき一般会計からの資金を繰り出すことにより運営している。標準財政規模比においても一般会計の占める割合は9.72%と他会計に比べ高く、一般会計における標準税収入などの経常的な一般財源の確保が必須となっている。

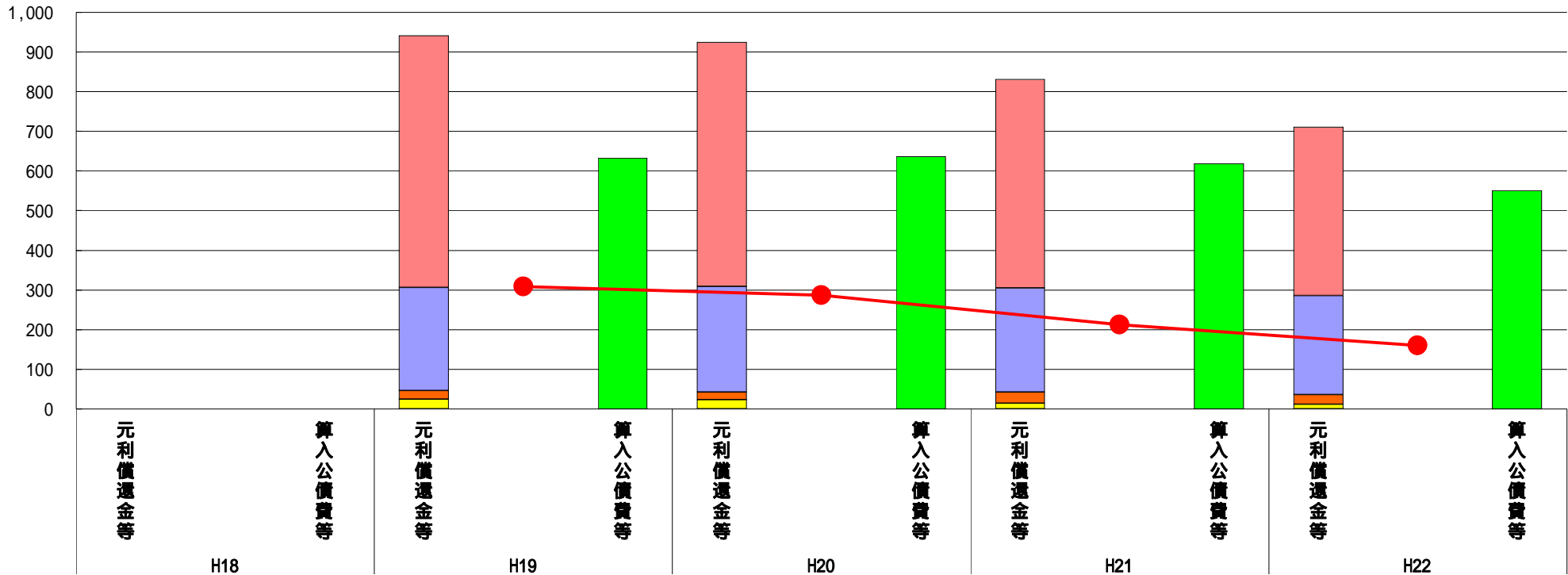
特にH22年度においては234,469千円(前年度比92,436千円)となっており、黒字額としては大きく伸びてはいるが、今後、各特別会計での収支均衡、繰出金にも注視する必要がある。

(7) 実質公債費比率(分子)の構造(市町村)

平成22年度

長野県中川村

(百万円)



(百万円)

| 分子の構造 | | 年度 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 |
|-----------|---------------------------|----|-----|-----|-----|-----|-----|
| 元利償還金等(A) | 元利償還金 | - | 635 | 615 | 526 | 426 | |
| | 積立不足額考慮算定額 | - | - | - | - | - | |
| | 満期一括償還地方債に係る年度割相当額 | - | - | - | - | - | |
| | 公営企業債の元利償還金に対する繰入金 | - | 260 | 267 | 263 | 249 | |
| | 組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等 | - | 22 | 19 | 28 | 25 | |
| | 債務負担行為に基づく支出額 | - | 24 | 23 | 14 | 11 | |
| | 一時借入金利息 | - | - | - | - | - | |
| 算入公債費等(B) | 算入公債費等 | - | 632 | 637 | 618 | 551 | |
| (A) - (B) | 実質公債費比率の分子 | - | 309 | 287 | 213 | 160 | |

分析欄

元利償還金等が年々減少傾向にあり、それに伴い実質公債費比率(利子)は減少している。
 項目別では、公営企業債の元利償還金に対する繰入金が平成20年度でピークに減少しているが、交付税算入される公債費を除いた実負担額では平成23年度がピークとなる。管渠工事が既に完了しており、今後急激な増加はない反面、償還期間が長いため、短期間での減少も期待できない状況である。
 また、有利な交付税措置がある過疎対策事業債について、近年発行額が増加していることから、今後元利償還金が増加していく事が予想される。

平成19年度決算と平成20年度決算の元利償還金は特定財源の額を控除しており、満期一括償還地方債に係る年度割相当額は積立不足額を考慮して算定した額を含んでいる。

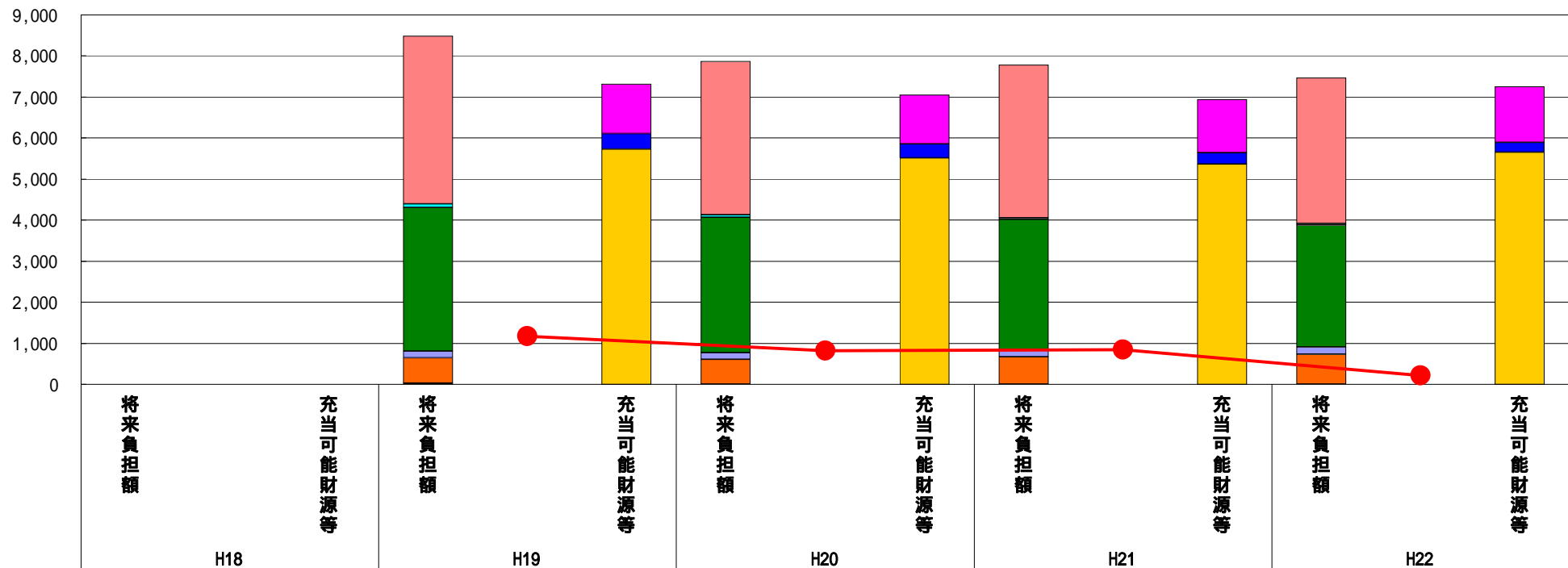
平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

(8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成22年度

長野県中川村

(百万円)



(百万円)

| 分子の構造 | | 年度 | H18 | H19 | H20 | H21 | H22 |
|-------------|-----------------|----|-------|-------|-------|-------|-----|
| 将来負担額 (A) | 一般会計等に係る地方債の現在高 | - | 4,101 | 3,738 | 3,717 | 3,544 | |
| | 債務負担行為に基づく支出予定額 | - | 80 | 59 | 48 | 40 | |
| | 公営企業債等繰入見込額 | - | 3,503 | 3,296 | 3,170 | 2,970 | |
| | 組合等負担等見込額 | - | 166 | 173 | 177 | 176 | |
| | 退職手当負担見込額 | - | 618 | 599 | 663 | 730 | |
| | 設立法人等の負債額等負担見込額 | - | - | - | - | - | |
| | 連結実質赤字額 | - | - | - | - | - | |
| | 組合等連結実質赤字額負担見込額 | - | 21 | 1 | - | - | |
| 充当可能財源等 (B) | 充当可能基金 | - | 1,213 | 1,195 | 1,301 | 1,359 | |
| | 充当可能特定歳入 | - | 381 | 341 | 274 | 239 | |
| | 基準財政需要額算入見込額 | - | 5,724 | 5,516 | 5,363 | 5,647 | |
| (A) - (B) | 将来負担比率の分子 | - | 1,172 | 814 | 838 | 215 | |

分析欄

将来負担額は、公営企業債残高のうち一般会計負担分である公営企業債等繰入見込額が減少し、一般会計等に係る地方債の現在高も減少していることから、合計額でも減少傾向にある。特に、一般会計等の地方債現在高については、平成22年度も新たに3億円の起債発行を行っているものの、平成21年度に引き続き地方債の繰上償還を実施し、早期返済した結果が反映されている。

また充当可能基金等の合計額についても基金の積み増しや、交付税算入率が良い起債を活用することにより増加しており、結果として将来負担比率(分子)は順調に減少している。

平成23年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。